

大学生入門

「文書リテラシー」 Lesson1 小論文とレポートの違いはわかりますか？



図書館情報メディア系 三波 千穂美 先生

また、こういった文書の形式を真似ることはしても、内容を“パクる”ことは犯罪であるとし、引用の重要性、注意点についても詳しく解説されました。引用の仕方について、何が誤りなのか、正誤クイズの形で例を出して紹介され、続いてそれらの例が著作権法の中の「引用」の項目にそぐわないものであることを解説くださいました。引用自体は自分の文書の根拠にするには全く問題ないが、その主従が逆転したり、ただ量を増やす為に行うのは不適切である。また、盗用は自分では気付かなくても、他人から見れば明らかなるものであり、本当に何の意味もないとも説明されました。

図書館情報メディア系の三波先生による文書リテラシーの第二回セミナー「小論文とレポートの違いはわかりますか？」が開催されました。大学生の「書く」課題についてどう取り組めばよいのかなど書き方に対する考え方について1からわかるセミナーでした。

最後は論文で使われる文体について、例を紹介してくださいましたが、結局は自分で論文を読み、使い方を知っていくものだと三波先生は仰います。

三波先生のご専門は **Technical Communication** というもので、何かを伝えるときに“目的、対象に応じた **Communication** をどう設計するか”を研究するものだそうです。

文書作成自体に関しても同じように、たくさんの文献に触れて、実際に自分で書いていく中で **Technical Communication** のスキルを上げていくことが重要であると締めくくっていました。

そんな三波先生の今回のセミナーは、文書にはさまざまな種類があり、その各々に目的があるということから始まりました。

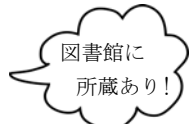
今回のセミナーでは今まであやふやだった事柄同士の繋がりを知り、ここでは書ききれないものを頂いた1時間でした。

目的に加え、対象（誰に書くのか）、場面（どんな状況で書くのか）の3つを考えたらうで、どんな要素を入れて書くかを決めていきます。目的を知るためには、出された課題の意味を知る必要があります。例えば、“〇〇についてあなたの考えを自由に展開しなさい”という課題であれば、“〇〇”という問いに対して自分の考えを述べるという目的があるのです。

最後に、セミナーの中で紹介して下さった文献を載せておきます。三波先生一押し面白い本なので一読をお薦めします。

目的は文書形式でも変わります。レポートであれば「何かを報告する」、小論文であれば「自分の考えを述べる」、論文であれば「問題を設定して解決をする」となり、それぞれで文の構成や書き方が変わってきます。特に論文については、誰がやっても同じになるという「再現性」を実現するための論拠が重視されると先生は仰っていました。

『新版論文の教室』  
戸田山知久/NHK 出版



レポート：IJJIMA  
(数理解物質科学研究科)





図書館情報メディア系 三波 千穂美 先生

分かりやすい文章を書きたい！そう思い悩んだ経験はありませんか？この悩みに向き合うための考え方が Lesson2 で講義されました。このときに鍵となるのが「情報を構造化する」という観点です。伝わる文章を書くために意識すべきことが丁寧に解説されました。

まず、執筆をコミュニケーションの一種と捉えるところから始まります。レポートや論文は他人への伝達を目指したものであり、自分だけが読む日記とは大きく異なる文章です。読み手に伝わらなければ意味がないとも言えるでしょう。そこで、伝えるべき相手の視点を考慮する必要性が出てきます。誰に・何を・何のために伝えたいのか、それをどのように伝えるのかを明晰にできるかが第一の関門となっています。

その上で重要になるのが情報を構造化することです。とりわけ学术论文の執筆には構造化が不可欠であると言われています。では、構造化とは何なのでしょう？その要点として次の4段階が紹介されました。

- ①執筆の目的や対象をよく理解すること（上述）
- ②素材となるデータを集めること
- ③集めたデータを整理・分類すること
- ④伝わりやすい形で情報を組み立てること

①・②・③が主に研究過程を示しており、④が執筆過程にあたると言えるでしょう。研究過程と執筆過程が異なること、そして執筆が研究過程に裏打ちされていることが見て取れます。

研究過程については問いを立てることの重要性に言及されました。とはいえ、ただ問いを立てればいい訳ではありません。解く意義のある問いを絞り出すことが大切だと言われます。その問いを解くことでどのような意義があるのかも意識的に考える必要があるのです。こうして抽出された問いに即して調査・実験を行っていくわけですが、そこではデータの声に耳を傾けなさいと強調されました。

執筆過程については学术论文の構成が取り上げられました。〈はじめに→先行研究→調査・実験…〉といった学术论文の構成が例示され、論文全体の中で各項目が担う意味合いについて講義されていくという展開です。これに加え、具体的な論述のあり方として論拠を示すことの重要性についても指摘されました。主張を裏づけるデータを示さなくては説得力を帯びてこないというわけです。ここではレポートの締切を引き延ばそうとする学生のメールを例に採り、主張 - 論拠を組み合わせる論述方法について平易に解説されました。

以上、セミナーの内容を断片的に概観してきましたが、最大のポイントは読者を意識しながら情報を構造化して伝えるという点にありました。この点に意識的に取り組むことで、一段と分かりやすい文章になるのではないのでしょうか。レポートや論文を書くにあたり、参考になる観点が多々盛り込まれた有意義なセミナーだったと感じています。

レポート：OYAMA  
(人文社会科学研究科)



☆ライティング支援セミナーは秋学期にも開催予定です。各回完結型ですのでお気軽にご参加ください！